



▲精巧に作られたからくり人形が芝居を演じる
小張松下流綱火「桃太郎鬼ヶ城の戦い」
▼小張松下流綱火「二六三番叟」



▲手製の火花から噴き出す火花で神社を清める
高岡流綱火「くりこみ」
▼高岡流綱火「高岡丸の舟遊び」

夏夜を彩る伝統の技

つくばみらい市の夏の風物詩「綱火」。あやつり人形と仕掛け火花を融合し、お囃子に合わせて綱を繰る伝統芸能です。当市には、「高岡流綱火」と「小張松下流綱火」の二流派が伝わっています。夏の夜を幻想的に彩る、それぞれ趣の異なる二つの綱火をぜひ、ご堪能ください。



高岡流綱火

今にも神社が燃えんばかりに、手製の火花であたり一面火の海となる「くりこみ」で始まるのが高岡地区に伝わる高岡流綱火です。毎年8月下旬、高岡地区の愛宕神社に火難と病難除け・家内安全・五穀豊穡を祈願して奉納されます。

この行事は、江戸時代の初頭から続いており、これを中止すると地域に不幸が起こると言われています。鎮守の祭りの際に大樹から赤と黒の蜘蛛が舞い降り果をつくる様子から村人が創作したと伝えられています。今でもその技術は、「高岡流綱火更進団」がその伝統を守り続けています。

小張松下流綱火

戦国時代末期から江戸末期にかけて小張城主であった松下右見守重綱公が考案したものと伝えられています。戦勝祝いや犠牲者の供養のために陣中で行ったと伝えられており、重綱は鉄砲を扱う火薬師であったとも言われます。家臣として仕えていた大橋吉左衛門が、重綱から火

薬の調合法などを伝授され、松下流と名付け、受け継がれてきたとされています。毎年行われる小張愛宕神社の祭礼は、8月23日の夕方に「繰り込み」を行い、翌24日に綱火を奉納します。現在は火難除け・五穀豊穡を祈願して奉納し、小張松下流綱火保存会が保存・伝承をしています。

- 高岡流綱火
◎日時：8月21日(日) 午後7時～
- ◎高岡愛宕神社(高岡631)
- 小張松下流綱火
◎日時：8月24(水) 午後7時～
- ◎小張愛宕神社(小張3235)
- 無料シャトルバス運行
◎みらい平駅会場 午後5時30分～
【問い合わせ】
市観光協会 ☎58-2111